

## 学長候補者の決定について

国立大学法人愛媛大学学長選考規程第 8 条第 1 項の規定に基づき、学長候補者を決定したので、下記のとおり公表する。

### 記

1 学長候補者 に しな ひろ しげ  
仁 科 弘 重

任期：3 年間（令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日まで）

2 選考理由

学長選考会議は、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める「学長に求められる資質・能力」に照らし、候補適任者 仁科 弘重 氏（現 国立大学法人愛媛大学理事・副学長）について、推薦書並びに経歴書及び所見の書面審査とともに、面接を行った。

同氏は、愛媛大学の在り方を見据えた明確なビジョンを持った上で、本学の特色・強みとする地域の優位性を引き出す能力に秀でていいる。

理事・副学長、社会連携推進機構長として、これまでに様々な産業界関係者や組織との交流を通して現在の社会状況の把握に努めると共に、学内における対話も重視し、地域社会との連携強化・促進という新しい特色・強みを構築してきた。本学における教育研究内容を精査し、文系理系を問わず、地域密着型センターの設置を進めてきた業績は特筆すべきものであり、地域のステークホルダーと学内の共創環境構築に繋げている。また、本学の発展に向けた企画に主導的に関わり、卓越したリーダーシップ、マネジメント力、実行力により、教育改革や組織再編の実績を重ねた。これらにより、優れた人材の輩出を含めた本学の機能強化が図られ、地域社会の発展に寄与した。

さらに、平成 29 年 10 月からは、緑化感性工学、生物環境調節学、環境制御学における実績により、日本学術会議会員として活躍している。

これらが評価され、このたび全ての学部から学長候補適任者として推薦を受けるに至っており、学内における信頼を得ていることも窺える。

加えて、With/After コロナ社会にあっても、多くの困難が想定内だったと思ってもらえる教育を目指す旨の抱負を述べている。

以上から、同氏は、現在の本学が置かれている状況を分析し、強いリーダーシップや

マネジメント力を発揮し、柔軟性とコミュニケーション力により改革を実行することができる人物であるといえる。困難な時代にあつて、新たな特色・強みを生み出す地域の知の拠点として多様性を持ち続け、立ち直る力を持った持続可能な社会の構築に貢献できるよう本学を導くことが期待される。

したがって、学長選考会議は、同氏が「学長に求められる資質・能力」を満たしていると判断し、全会一致で同氏を次期学長候補者に決定した。

### 3 選考過程

令和2年3月19日	学長選考会議は、学長に求められる資質・能力及び学長選考の手続き・方法について基準を定め公表した。
令和2年5月18日	学長選考会議は、学長候補者の選考について公表した。 学長選考会議は、各学部へ候補適任者の推薦を依頼した。
令和2年8月7日	学長選考会議は、各学部から候補適任者1名の推薦を受け、推薦書、経歴書、受諾書及び所見（別添のとおり）を受理した。なお、職員30人以上の連署による推薦及び学長選考会議による候補適任者の選出はなかった。 学長選考会議は第一次選考を行い、1名を候補適任者として選考し、公表した。
令和2年9月14日	学長選考会議は、候補適任者に所信を表明する機会を与えるため、演説会（学内動画配信）を行った。（令和2年9月18日まで配信）
令和2年9月24日	学長選考会議は、候補適任者に面接を行った上で、推薦書、経歴書、所見、演説会の内容等を総合的に判断し、学長候補者を決定、公表した。

以上

令和2年9月24日

愛媛大学学長選考会議